

# 英、外国人客2割増

【ロンドン＝鳳山太成】

欧州連合（EU）からの離脱を決めた英国が思わぬ観光ブームに沸いている。英通貨ポンドが下落し、海外からの観光客に割安感が広がったためだ。7月の外国人客は前年水準を2割上回ったもようだ。EUとの人の行き来の自由が今後の課題となるなか、観光業が足元の英景気を支える皮肉な役割を果たしている。

英 EU 離脱

## ポンド急落で観光活況 長期では「往来の自由」焦点



ロンドン中心部にある大英博物館を訪れる観光客ら

ロンドン中心部の観光地ではスペイン語や中国語が飛び交う。「英国は物価がとて高いから、ポンド安は助かる」。スペインのマドリッドから妻と娘3人を連れて大英博物館を訪れたベルナヒ・ゴンザレスさん（48）はこう語る。

英国が6月23日の国民投票でEU離脱を決めた後、英経済の先行き不安からポンドが急落。足元でも対ユーロや対ドルで約1割安い水準が続く。業界団体の「英観光業連合」が加盟500社に実施した調査によると、ホテルや航空便の予約状況などから、7月の外国人観光客は前年同月比18%増えたと見込む。ポンド安で英国人も旅先に国内

内を選ぶ傾向を強めており、英国人の国内旅行者も11%増えたようだ。

地元メディアによると、大手予約サイトによる欧州大陸各地からロンドン行きの航空便予約は、米国人や中国人の消費額が昨年より多いという。

英観光業連合のバーナード・ドノウ会長は短期的な活況を喜びつつも「長期的に好調を保つには（英国がEUを離脱しても）旅行者が簡単に行き来できるかどうかにかかっている。英国の観光業を支えるEU出身の労働者も引き続き確保できるようにしてほしい」と政府に注文をつけた。